

骨・関節 X 線写真の撮りかたと見かた 第 7 版

堀尾重治 著

ひとつの著書が第 7 版まで版を重ねることは、最近の医学関連の出版物にあつてはそう多いことではない。本書を利用する人が多く、期待が高いことを物語っている。

本書は国内に限らず近隣諸国で翻訳されて利用されていると聞いている。本書は堀尾重治氏の努力の結晶であるとの一言に尽きるが、当然、版を重ねるにしたがつて充実してきている。第 7 版では MRI に関する記述がさらに追加されている。骨格系の MRI となれば当然、脊椎・関節に重点が置かれる。第 7 版では特に脊椎に関する記述が充実しており、病的画像所見や臨床症状が要領よくまとめられている。堀尾氏は卓越した放射線技師長であった人であるが、本書をこのレベルまで引き上げた努力は並大抵のものではなかったはずである。その努力と勇気が内容に表れている。心から敬意を表したい。

さて、本書は診断学の本ではなく、撮影に軸足を置いた解説書である。しかし、撮影法や病的所見がうまくまとめられているので、医療に携わる人が勉強するには格好の内容である。取り上げた疾患や外傷も代表的なものが示されており、通覧的に勉強するにはもってこいの好書である。

画像をつくる立場にある放射線技師に対しては、骨・関節の撮影体位や病的所見を理解するには大変有用であると考え。病的所見を知らないのと知って撮影するのでは画像の診断的有用性に違いがでてくるはずである。また、写真を見る立場の人にとっては撮

影体位との関連で所見の理解を深めることができると思う。特に、骨折や脊椎疾患がよく書けているので、医師にはもちろんのこと、理学療法士や柔道整復師にも座右の参考書として推薦できるものである。

当然のことながら、本書は骨・関節の撮影や見かたを総覧的に述べてあるので、個々の疾患に立ち入って記述されているわけではない。しかし見事な挿図は大変わかりやすい構成である。7 版を重ねることができた理由がよくわかる。加えて、今回の改訂では書き下ろしの図が約 180 点あり、旧版より流用の図も色の塗り分けをさらに効果的に行うなど、一層視覚的に理解しやすいように工夫してある。堀尾氏がすべて描いた細密画により、撮影方法や読影のポイントをしっかりと理解できるように工夫されている。本書の挿図は他に追従を許さない見事なものであり、クリアカットに示された所見は大いに参考になる。MR 像の説明では、著者自身も若干隔靴搔痒の感を持っておられると思う。しかし今後、骨・関節画像診断は MRI に依存する割合が増すであろうから、この第 7 版で MRI に関する記述が増したことはきわめて意義あることだと思う。

順天堂大学名誉教授 片山 仁

●B5 頁 476 2007 年

定価 6,510 円 (本体 6,200 円 + 税 5%)

[ISBN978-4-260-00386-5] 医学書院刊